

基本コンセプト

まちが 町民が 元気になる 集いや出会いにあふれる ふれあいの場

新しい生涯学習センターでは、施設の中全体が、すべての利用者にとっての活動場所となることをイメージします。

サークル活動にきたお年寄りや図書館にきた親子、学校帰りの中高生や学童保育に通う小学生、勤めを終えた成人など様々な世代の利用者が気軽にふらっと立ち寄れる場所となることで、それぞれの目的を超えたふれあいが生まれます。

このような状況をつくるために、世代交流を促す自由度の高い空間作りを目指します。

配置とかたちのコンセプト

● まちとつながる4つの入り口

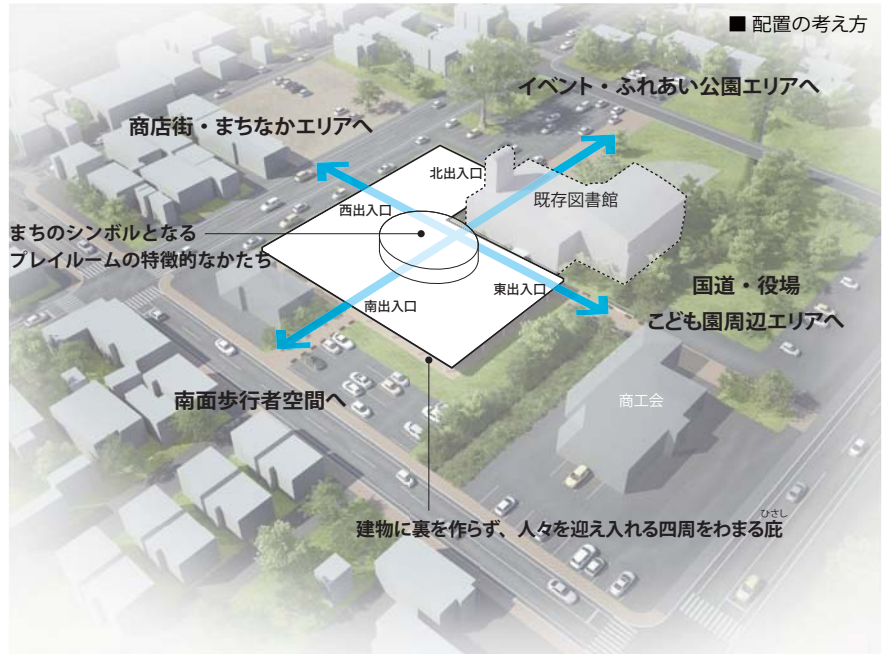
新しい生涯学習センターは、4つの方向すべてが正面となるようにデザインします。役場や公共建築とつながる東側、歩行者の利用が見込める南側、商店街に近い西側、駐車場やふれあい公園とつながる北側、それぞれの方向に対して入り口を持つ、結節点としての施設になります。

● 外周にまわす多目的な^{ひさし}庇

施設外周にまわす^{ひさし}庇は、どの方向から出入りする人も迎え入れるようなデザインであり、^{ひさし}庇下空間は雨や雪にさらされない移動経路や車寄せとして利用できます。また、イベントや子供たちの活動スペースとしても使えますし、日射をささげることによる暑さ対策、壁面保護による施設の長寿命化の意味も重要です。

● まちの新しいシンボル

町のどの方向にも正対した表情をつくります。既存建物や残された樹木の奥に、特徴的な深い軒のデザインが、どの方向からも見ることができます。建物中央のプレイルーム上部は、施設のシンボルとしてどこからも見えるとともに、夜間は内部の明かりにより柔らかく光ります。



平面計画のコンセプト

● 自由な居場所：プロムナード(散歩道)

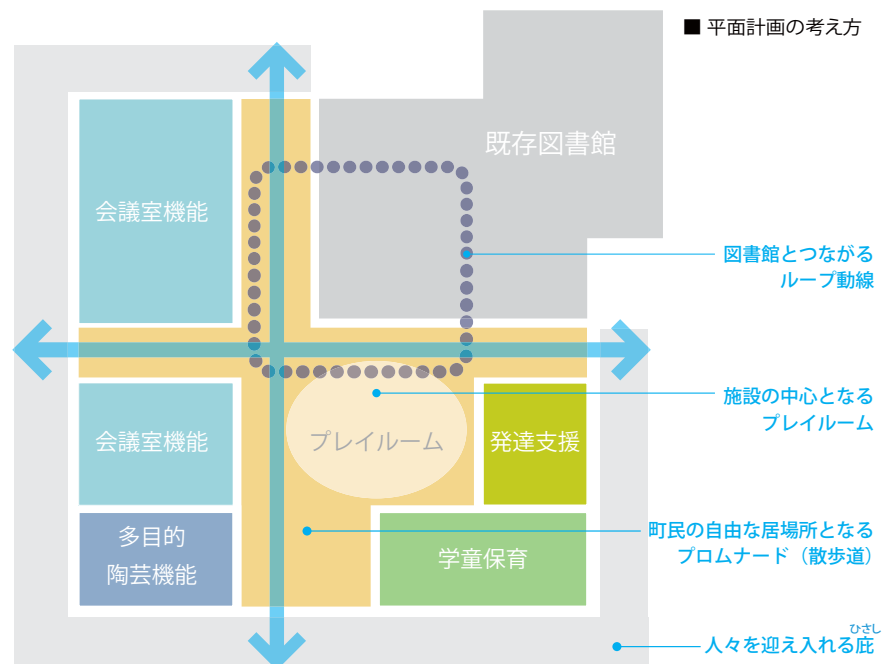
本施設は、4方向からの出入りを容易にした、人の流れの結節点となることが求められています。今回の計画ではこの方針に沿って、南北方向と東西方向を貫通する2本の通り、プロムナード(散歩道)を提案します。様々な機能は、この2本のプロムナードに沿って配列されます。プロムナードは単なる動線空間ではなく、食事や本を読む居場所になったり、あるいは展示や情報の場になるなど、自由な交流の場を計画します。

● 施設の中心：多目的なプレイルーム

十分な天井高さが必要なプレイルームを施設中央に配置します。学童保育と発達支援の子供たちが使いやすいように、位置的に近接させるとともに、講演などの多目的利用や夜間の一般利用も考慮した配置としました。プロムナードからは活動の様子が見え建物全体の活発な交流を促します。

● 図書館との緊密な連携

生涯学習センターと図書館との連携を重視します。図書館とは2ヶ所の渡り廊下で連結し、ループ動線をつくることで、管理上機能的になるとともに、閲覧場所、自習空間などの機能を新しい施設で展開することも可能となります。

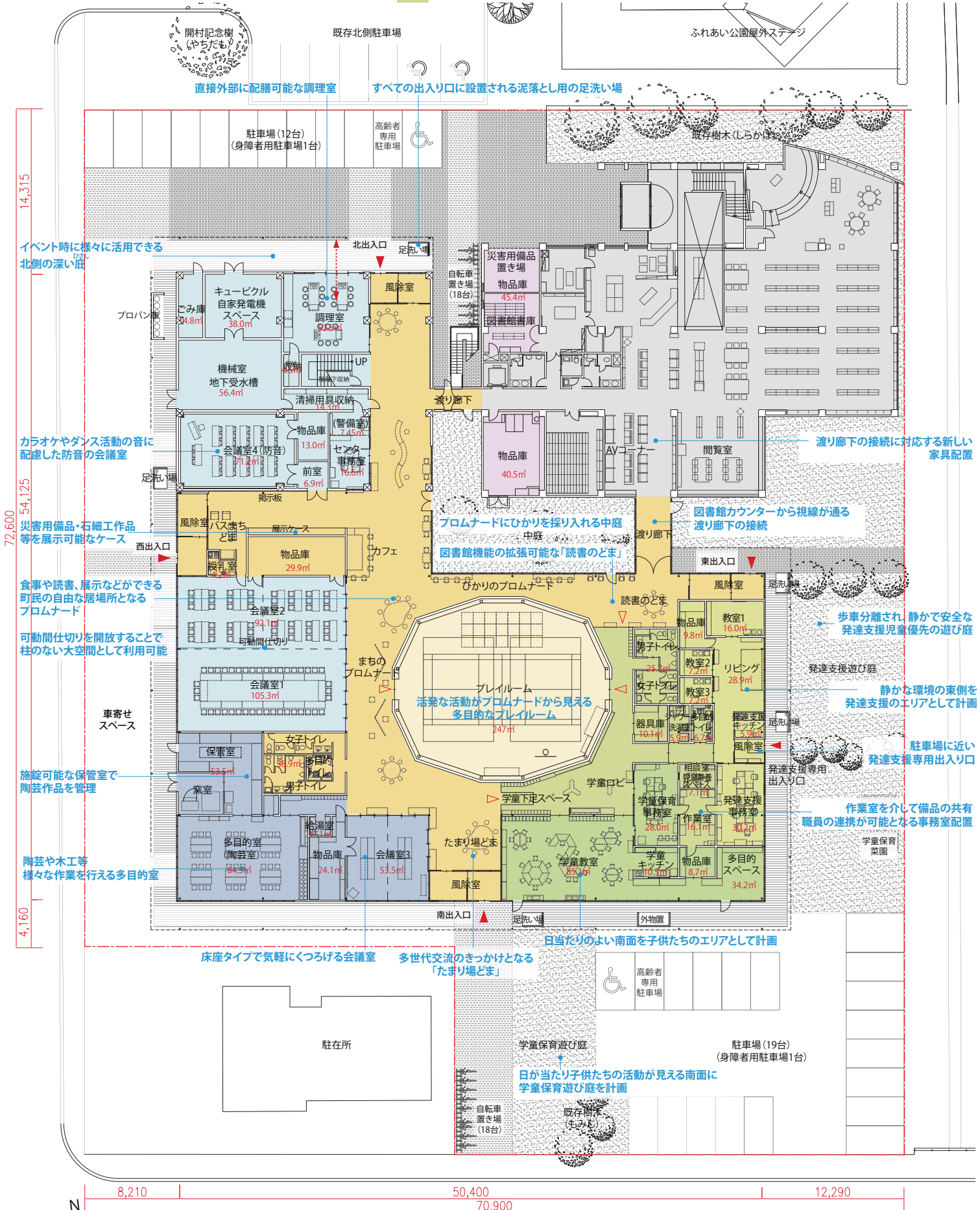


- 生涯学習エリア
- プロムナード(共用エリア)
- 発達支援エリア
- 既存図書館
- 高齢者生きがいエリア
- プレイルーム
- 学童保育エリア

1階平面図

- : 生涯学習エリア
- : プロムナード (共用エリア)
- : 発達支援エリア
- : 既存図書館エリア
- : 高齢者生きがいエリア
- : プレイルーム
- : 学童保育エリア
- : 既存図書館改修部分
- : 学童発達共用エリア

1階面積 2,045㎡
 2階面積 276㎡
 延床面積 2,321㎡



イベント時に様々な活用できる北側の深い底

カラオケやダンス活動の音に配慮した防音の会議室

災害用備品・石細作品等を展示可能なケース

食事や読書、展示などができる町民の自由な居場所となるプロムナード

可動間仕切りを開放することで柱のない大空間として利用可能

車寄せスペース

施設可能な保管室で陶芸作品を管理

陶芸や木工等様々な作業を行える多目的室

渡り廊下の接続に対応する新しい家具配置

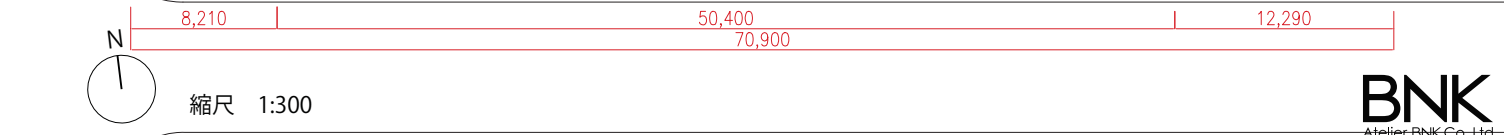
図書カウンターから視線が通る渡り廊下の接続

歩車分離され、静かで安全な発達支援児童優先の遊び庭

静かな環境の東側を発達支援のエリアとして計画

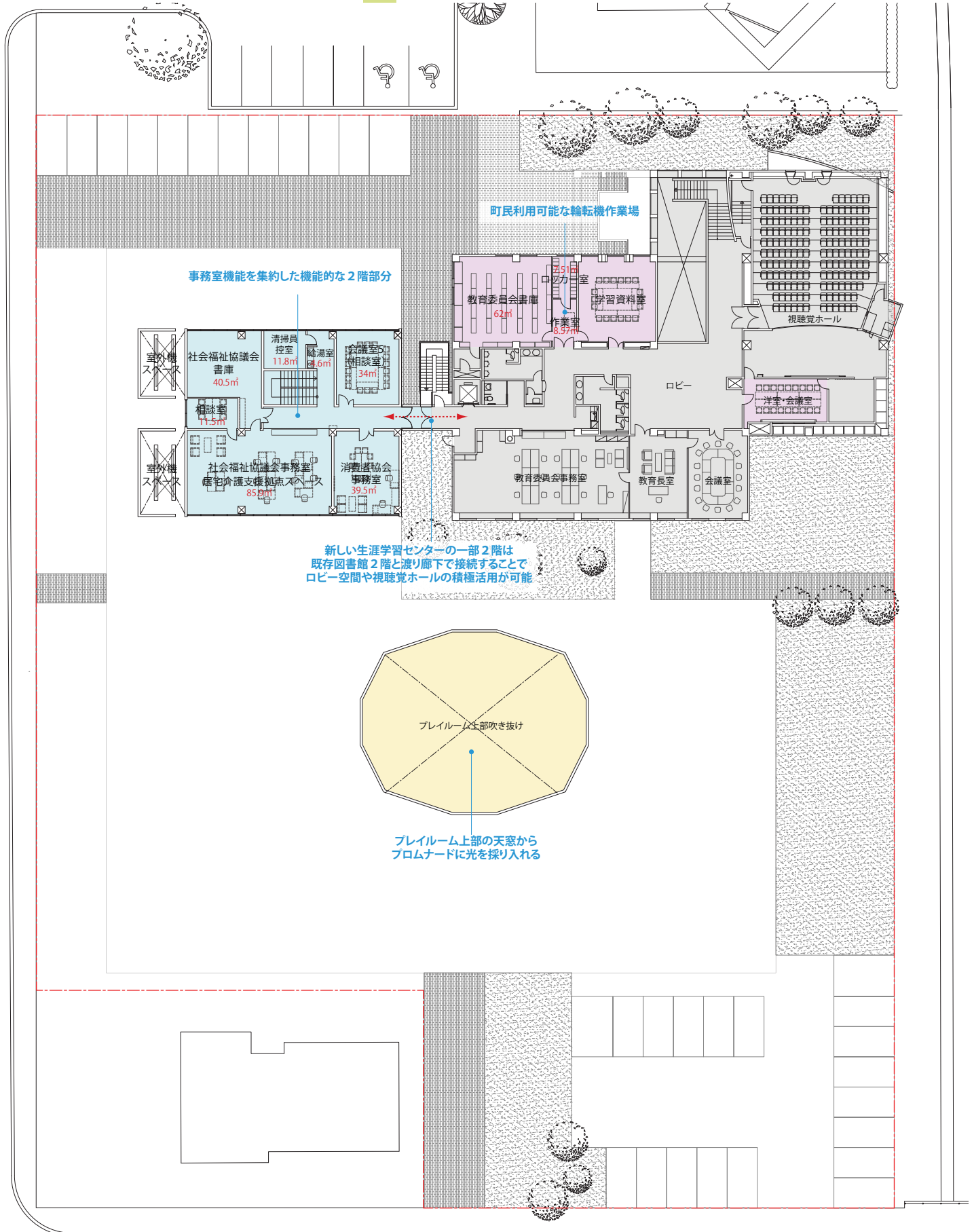
駐車場に近い発達支援専用出入口

作業室を介して備品の共有職員の連携が可能となる事務室配置

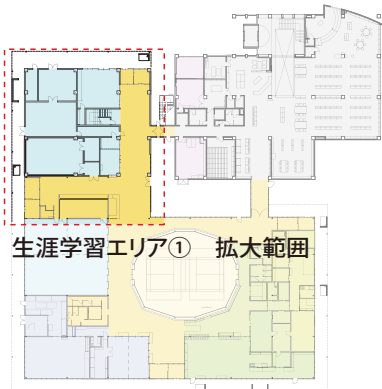
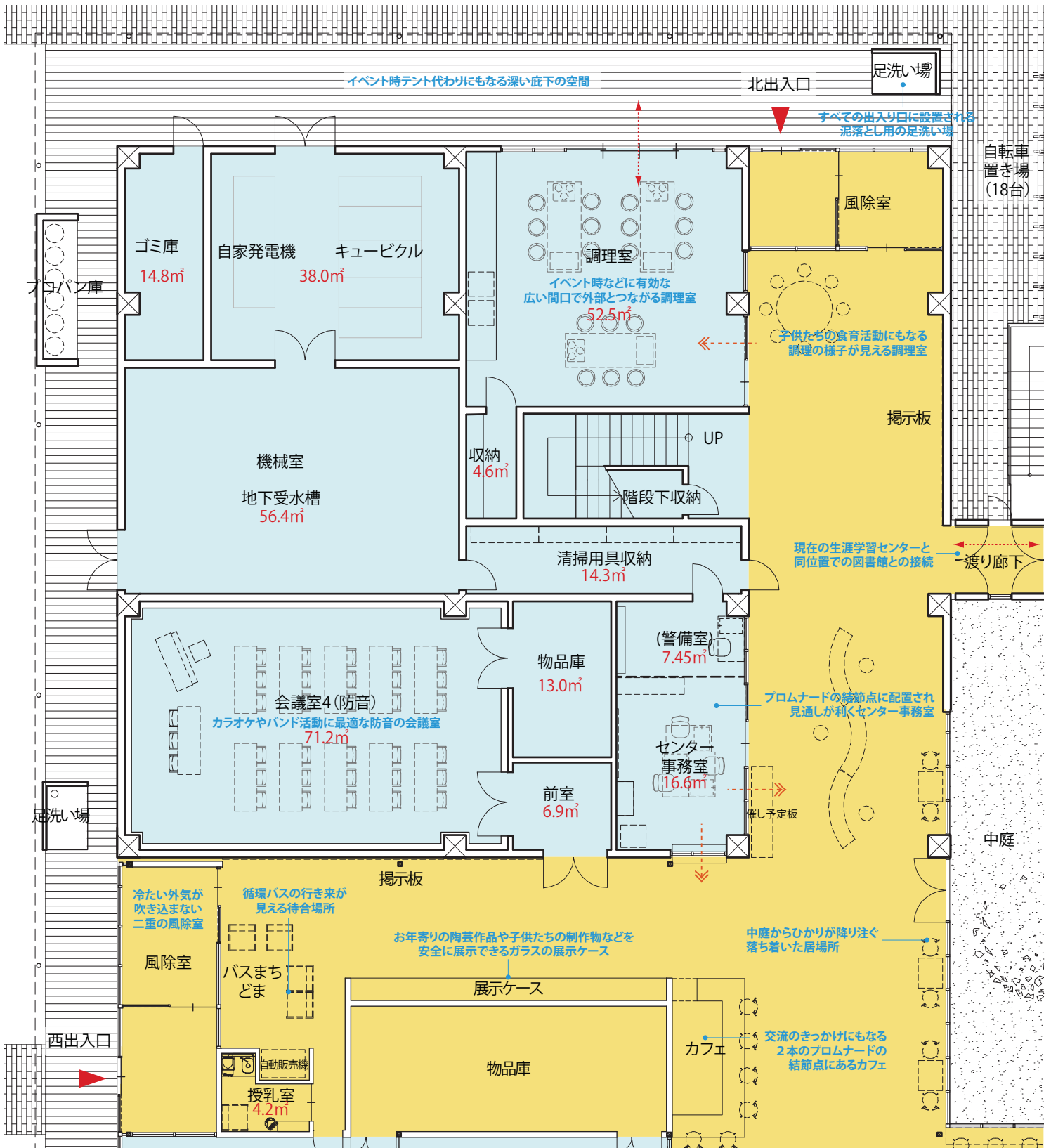


- : 生涯学習エリア
- : プロムナード (共用エリア)
- : 発達支援エリア
- : 既存図書館エリア
- : 高齢者生きがいエリア
- : プレイルーム
- : 学童保育エリア
- : 既存図書館改修部分
- : 学童発達共用エリア

1階面積 2,045㎡
 2階面積 276㎡
 延床面積 2,321㎡



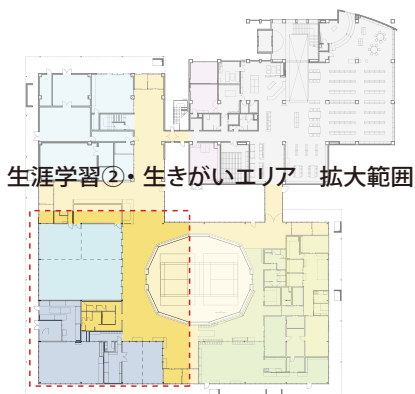
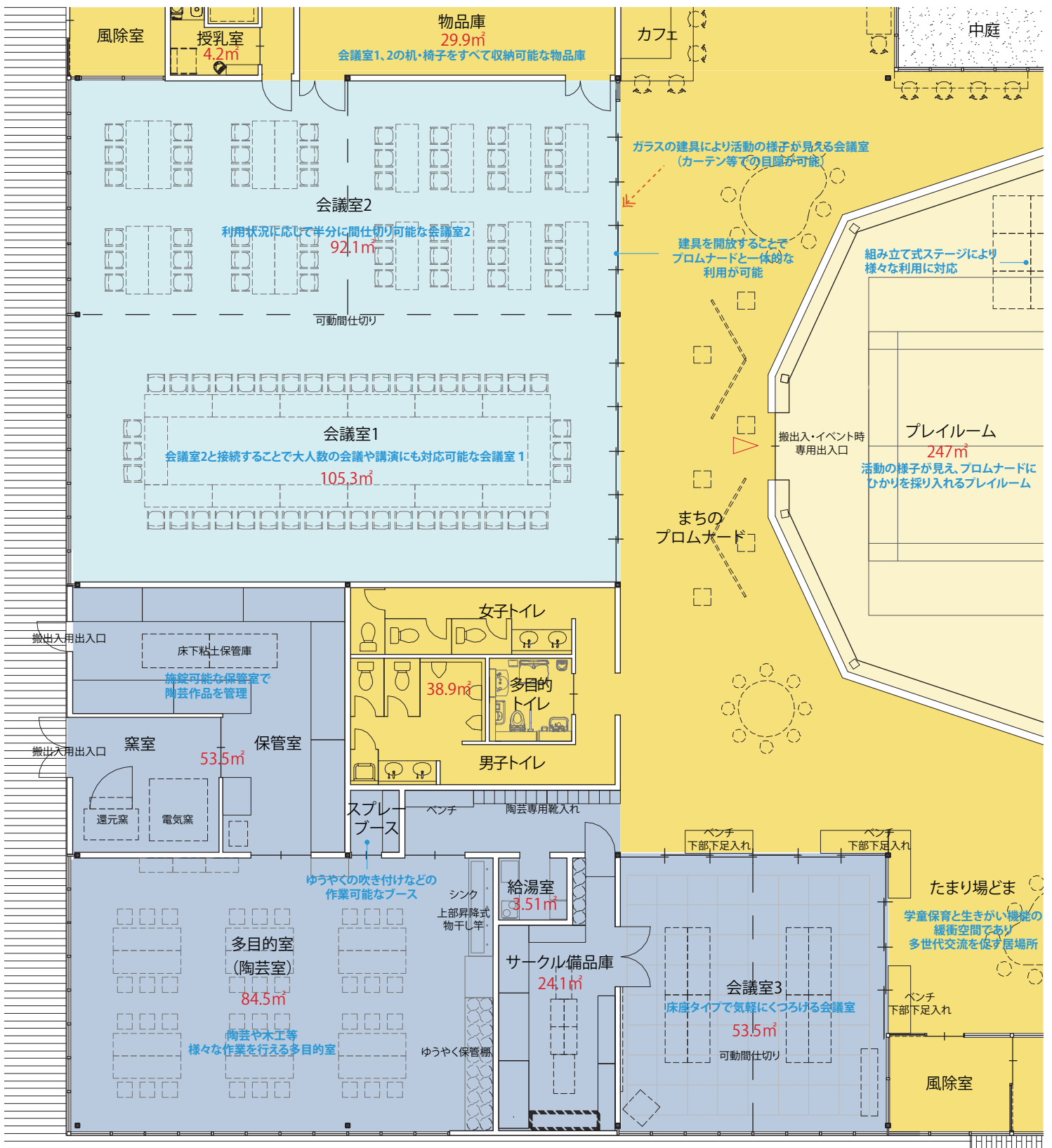
縮尺 1:300



建物北側には音や調理のにおいなど、プロムナードとしっかりと境界を作る必要がある機能を集約しながら、同時に様々な居場所を作ります。また、車の寄り付け可能な北側駐車場に機械室やごみ庫等の設備・インフラ関連機能を集約することで、管理面でも有利な計画とします。



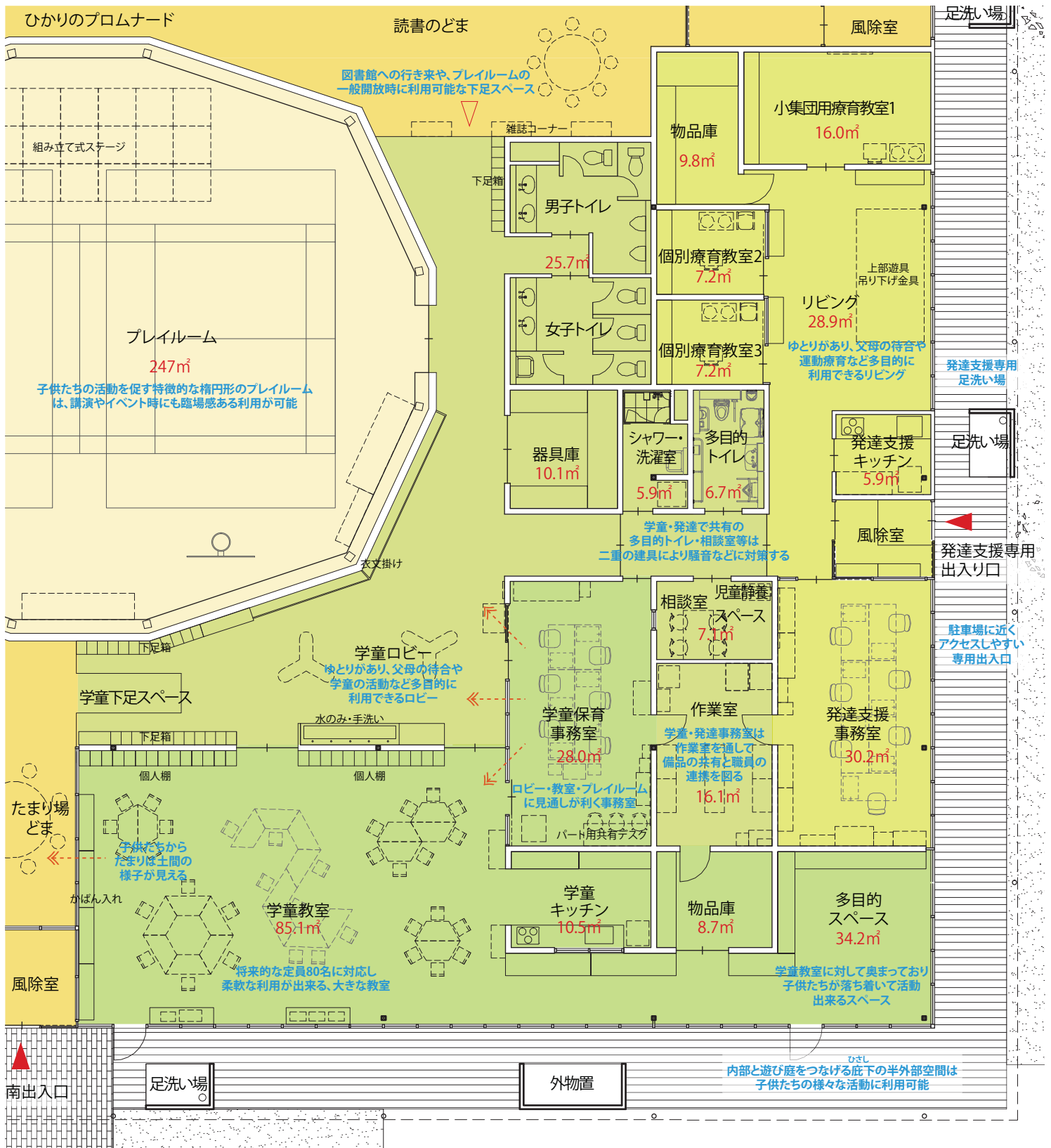
拡大図縮尺 1:100



会議室 1.2.3 はそれぞれ建具を開放することでプロムナードとつながり、状況に応じて広がりのある活動を行うことが可能です。様々な活動の様子が見える「まちのプロムナード」は展示や飲食など、自由な活動ができる広がりのある場所があり、特に目的のなくても楽しめる居場所となります。

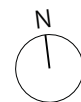


拡大図縮尺 1:100

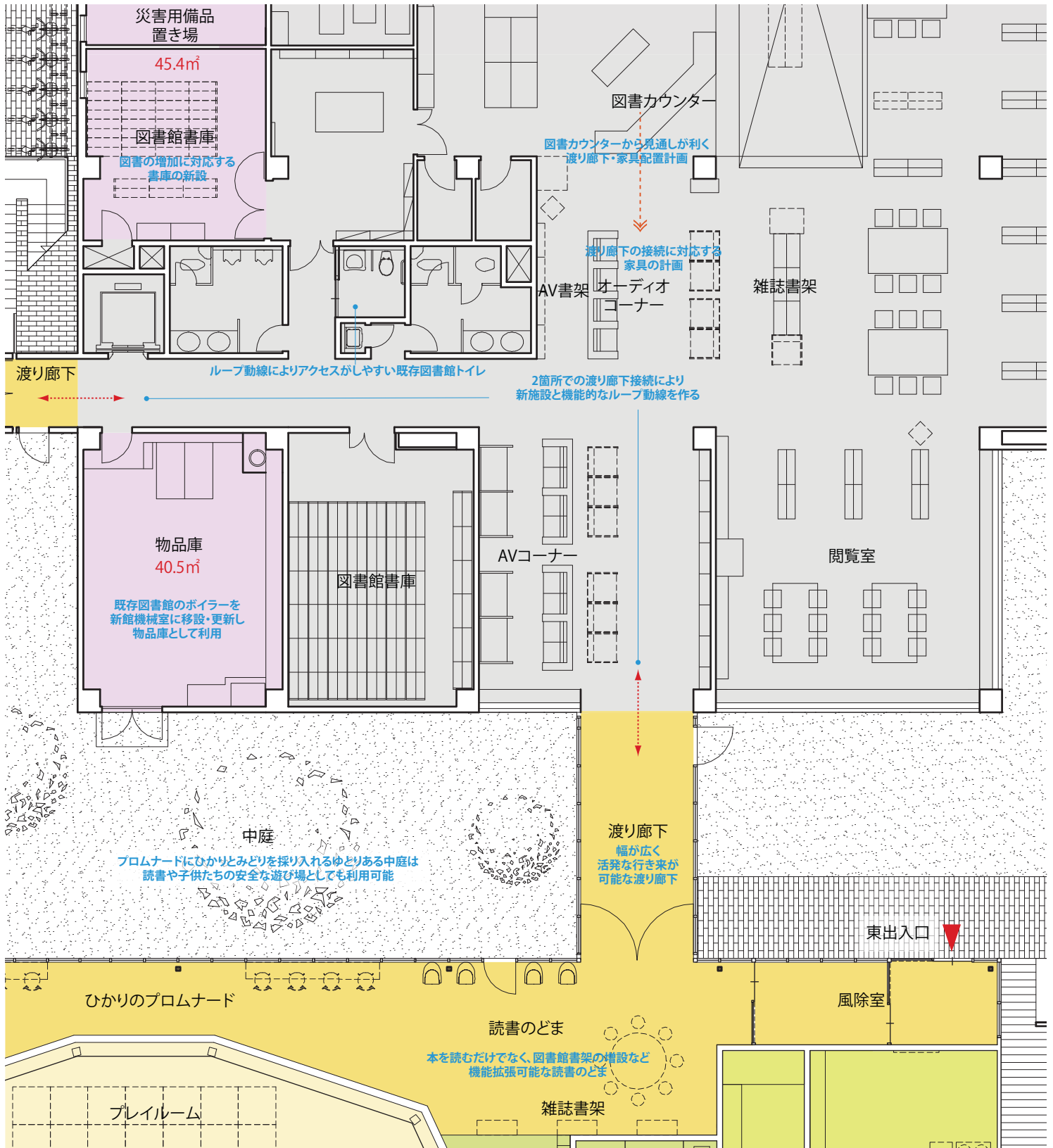


南に面した学童保育のエリアと東側遊びの庭に面した発達支援のエリアは、プレイルームと連続した上履きの領域として集約されます。外部から内部に向かって、外の遊びの庭一軒のある縁側ー内部の部屋ープレイルーム、と連続する関係をつくり、子供たちの多様な活動環境をつくります。

学童保育・発達支援エリア 拡大範囲



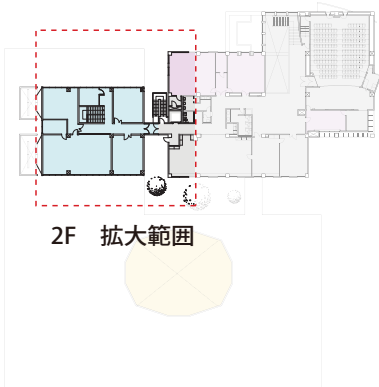
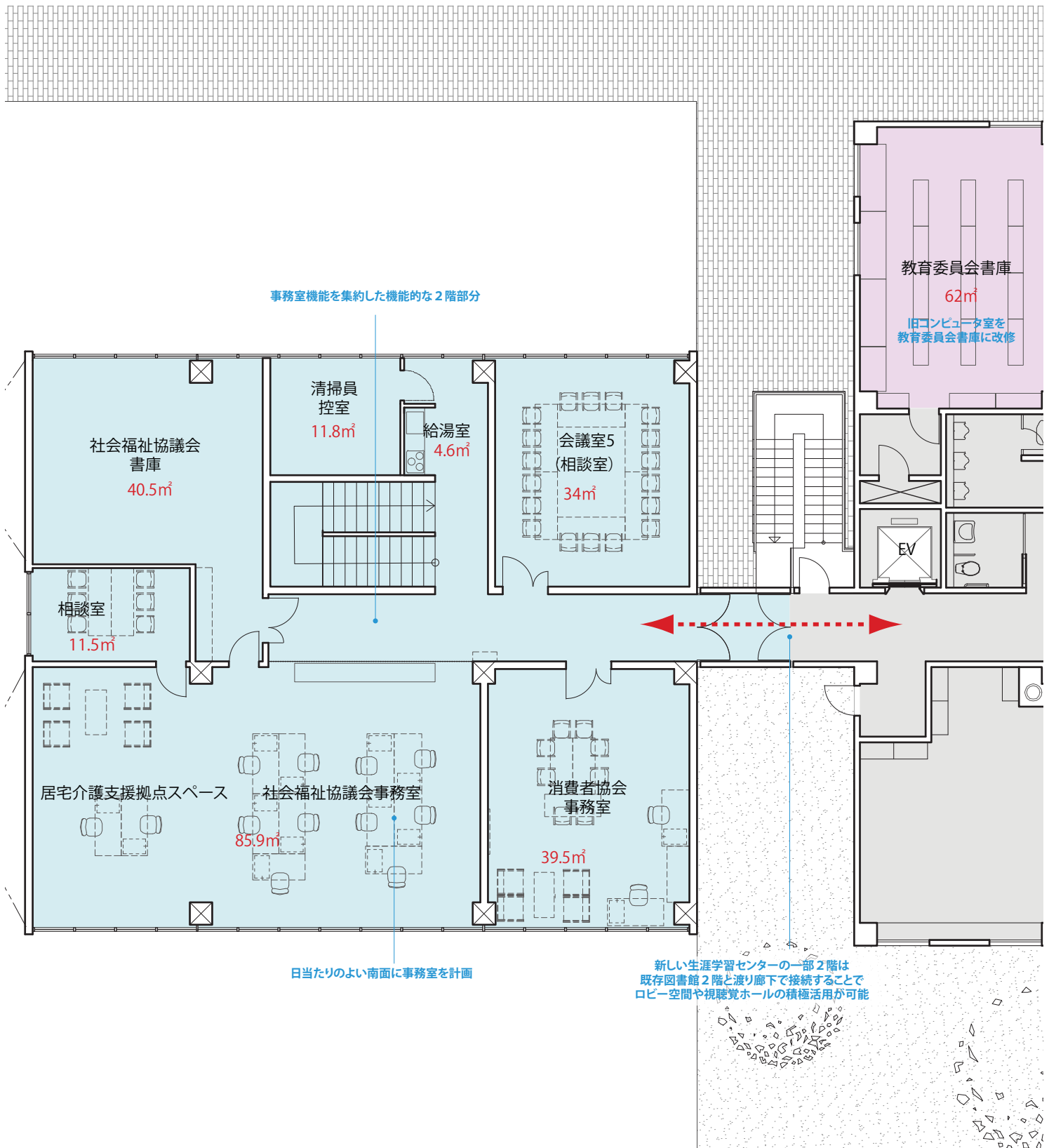
拡大図縮尺 1:100



新しい施設と既存図書館の間には、緩衝地帯として中庭を確保します。既存図書館への採光、通風をある程度確保するとともに、プロムナードに自然光を導きます。また、新しい施設と図書館とは2ヶ所で連結させることでループ動線をつくります。管理上機能的になるとともに、雑誌閲覧、自習空間などの機能を新しい施設で展開することも可能となります。



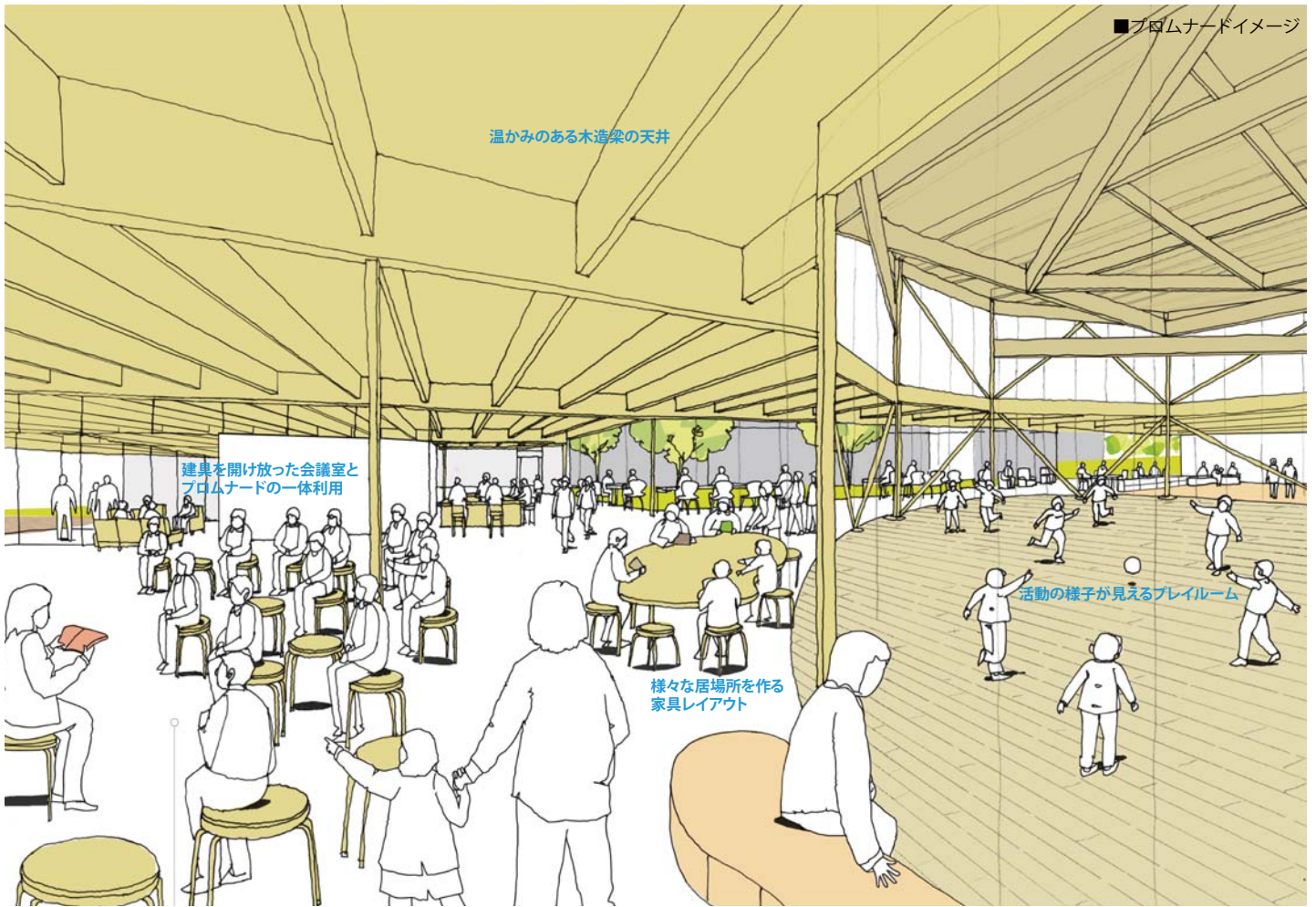
拡大図縮尺 1:100



2階建ての部分には既存生涯学習センターの事務室機能を集約します。常に職員が滞在する事務室は日当たりのよい南側に、書庫や会議室などの一時滞在の室を日射の影響を受けにくい北側に計画します。既存図書館2階部分に対しては渡り廊下で連結することで、既存トイレやエレベータの共有が可能となり、また図書館2階のロビー空間の積極活用が可能となります。



拡大図縮尺 1:100



施設全体は、廊下のような移動専用空間をできるだけつくり、すべての空間が居場所として使えるような一体空間をイメージします。施設に目的のない人がふらっと立ち寄ることができるように、プロムナード空間やどま空間などを居心地のいい環境にします。会議室やプレイルームの中などが見える場所、中庭や天窓からの光が降り注ぐ場所、遊び庭に面した庇のある場所、静かな狭い場所など様々な空間を用意しそれぞれの場所にふさわしい家具レイアウトを提案します。